静岡県立富士高等学校

令和６年度 学校経営報告書（自己評価）

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**日常的な授業改善への取組等を通し、生徒の主体的な学びを促し、学力の向上を図る。**	●「授業(分かりやすさ、意欲等)は概ね適切」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒 90.5% 保護者 74.3%	B	生徒の肯定的な意見が増えたことは良いことである。一方で、保護者は何をもって「授業は適切でない」と意見しているのか、その理由を知りたい。また「わからない」という回答も約 15%あり、どうすれば「授業」について知っていただけるのか検討する。
		●「授業改善に取り組んだ」と答える教員 100%	97.9%	B	昨年度 100%だったが、今年は 97.9%であった。来年度は再び、100%になるように授業アンケートや研究授業週間を実施する。
		●「タブレットを効果的に授業に活用している」と答える教員 100%	95.7%	A	職員へのタブレット貸与2年目でデジタル教材の共有化が進んだ。また、8月や会議後の職員研修を通してロイロノートなどのアプリ機能の活用も進んだ。今後は貸与タブレットの最新化や蓄積されたデジタル教材の分類や保存ルールなど、更なる活用に向けた細かな取り決めが必要である。
		●「主体的に学習に取り組んでいる」と肯定する生徒・保護者 85%以上	生徒 83.9% 保護者 83.3%	B	情報推進室の全面協力のもと、タブレットを有効に授業等で活用するための研修会を複数回実施することができた。来年度も継続したい。
		●「学校は生徒の学力向上に努力している」と肯定する生徒・保護者 80%以上	生徒 92.2% 保護者 88.5%	A	生徒 83.9%（昨年度比+5.0%）、保護者 83.3%（昨年度比−3.6%）であった。生徒が考える「主体的に学ぶこと」と、卒業後の進路を見通して教師が考える富士高校での学びがうまく重なり、それを生徒が理解できることを目指す。
		● 理数科生徒及び担当職員課題研究への満足度の向上 ● 各種行事生徒満足度 4.5 以上（満点 5.0 点）	4.7 点	A	理数科行事に加え、他県の理数科設置校との交流を実施することができた。また、1 年次の校外学習としてサイエンスツアーを実施し、生徒の科学的素養を深めることができた。次年度は課題研究の充実・発展に向けて取組を進める。
イ	**高いこころざしを育み、進路実現を図る、計画的・組織的・継続的な進路指導を実践する。**	●「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている」と答える生徒・保護者 85%以上	生徒 88.4% 保護者 72.2%	B	本年度は保護者にも Classi を使った情報配信を行ってきたが、PTA 総会、PTA 進路講演会以外にも（他校では1・2年生の保護者に対しての進路説明会を実施しているところもある。）保護者への説明会の機会を考えたい。
		●「学校は、生徒の進路希望実現のために適切な情報を提供している」と答える生徒・保護者 85%以上	生徒 89.8% 保護者 76.9%	B	生徒に対する情報発信は Classi 等を通じて、頻繁に行ってきた。また本年度は保護者に対しての配信にも力を入れ、Classi による定期的な配信を行ってきたが、あまり成果が見られなかった。対面や紙媒体による広報も必要かもしれない。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	**富士高生にふさわしい品位ある態度や行動を促すとともに、リーダーとしての社会性や国際感覚を育む。**	●「学校は基本的な生活習慣を身に付けるよう適切な指導をしている」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒 90.7% 保護者 85.1%	A	基本的生活習慣については 90.7%が適切と回答している。一方、基本的生活習慣が身についていないと回答した 8.8%の生徒への対策を講じていく。
		●「頭髪、服装指導等、学校の生徒指導に共感できる（理解している）」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒 83.4% 保護者 85.1%	B	頭髪、服装指導等、学校の生徒指導に共感できると答えた割合は83.4%で目標の 90%を下回った。価値観の多様化が進んでいる結果と推察される。
		●「富士高生のモラルやマナーはよい」と肯定する生徒・保護者 90%以上	生徒 87.4% 保護者 93.2%	B	モラルやマナーがよいと答えた割合が87.4%に対し、あてはまらない及びあまりあてはまらないと答えた割合が 11.5%であった。マナーやモラル自体を認識していない生徒もいるため、マナー教育を実施する必要がある。
		● 国際感覚の涵養等に資する研修会等への参加生徒の増加	53 人参加 （昨年 39 人）	A	グローバルスタディーズプログラムは 1･2年生で7名が参加した。県や市が主催、費用補助を行っている海外研修に参加する生徒は増加したので、紹介を積極的に行っていきたい。また、参加生徒校内報告会を行う機会を模索したい。
		● 自転車事故件数 15 件以下	12 件	A	交通事故件数は 13 件で、自転車による事故は 12 件であった。継続して事故防止教育を推進する。
		●「学校の交通事故等に関する指導は適切である」と答える生徒･保護者 90%以上	生徒 88.6% 保護者 78.9%	B	交通事故に関する指導は適切であると答えた割合は 88.6%であった。交通事故防止に関する指導をさらに周知していく。
		●いじめ0件	0件	A	いじめの認知件数は 0 件。いじめによる生徒指導 0 件であった。人権尊重の意識を高めるため、様々な場面で指導を行っていく。
		● 非行等の問題行動0件	2件	B	集団の中でのふるまい方、仲間との関わり方を考えさせる機会を増やして防止に努めたい。人権尊重の意識を高めるため、様々な場面で指導を行っていく。
エ	豊かな感性を育み、心身の健康の保持･増進を図る。	● 学校図書館の蔵書の貸出数 1700 冊以上	1,222 冊	C	生徒数の減少に伴って目標貸出冊数も減らしてきたが、本離れの方の加速が著しい。本校は朝読書がないところをLHRでの読書活動で補うといった趣旨が薄らいで、3年部には計画すらなく、2年部のPOP作りもカットされるなど、形骸化が進んでいる。1年生を中心に、授業時間内に図書室で本に触れる活動を組み込むなど、次年度の図書館活動を工夫したい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		●「学校は生徒の健康、安全、衛生面に配慮している」と答える生徒・保護者 85%以上	生徒 79.8% 保護者 75.8%	B	現場での生徒の健康、安全への対応は概ね良好であるが、トイレやゴミ箱等で衛生面に難色を示していると思われる。トイレ清掃を念入りに行うために、トイレ清掃担当(クラス)を輪番制ではなく固定制にする。ゴミ箱を設置すると処理費用が増えること、鼻をかんだティッシュなどから感染症が拡大する可能性があることを理解させ、ゴミ持ち帰りを徹底させる。
		●「学校は悩みや相談に適切に対応している」と答える生徒・保護者 80%以上	生徒 77.9% 保護者 69.4%	C	現在のシステムでは対症療法的な面が強い。関わった保護者や生徒からの反応は良好であるが、一般生徒や保護者からはまだ認知されていない。一般には、相談室よりも身近な担任をイメージして回答する人も多いのではないか。
		●講演会等の実施	実施済	A	ゲーム(スマホ)依存や、睡眠など、生徒の身近な題材を取り扱うことができた。特に思春期講座は日程の工夫、対象学年を1・2 年生に変更したことがよかった。
		● 学習環境の改善・安全対策修繕 10 ヶ所以上	24 ヶ所	A	職員からの連絡や校内巡視で気付いた不良個所について、まず現状を確認し、校内修繕又は業者依頼している。次年度も同様に早期対応する。
オ	組織的な学校運営と家庭・地域等への情報発信により、信頼関係を築く。	● 週に 1 回以上、学校ホームページを更新する。	60 回	B	校内の教育活動の様子、部活動の実績等の情報を提供できた。年度途中で HP がリニューアルされたので、次年度はより迅速に発信していきたい。
		●「学校からの情報は内容に富み参考になる」と答える生徒・保護者 80%以上	生徒 68.9% 保護者 83.3%	B	生徒 68.9%〈昨年度比+1.8%〉、保護者 83.3%〈昨年度比+4.9%〉であった。授業公開では、生徒の活動を伝える掲示物や動画が好評であったので、よりよいものにしながら継続する。
		●「研修等を通し、不祥事根絶に向けた意識が高まっている」と答える教職員 100%	100.0%	A	職員会議や職員打ち合わせでコンプライアンス通信などを活用した。また、不祥事根絶に向けたグループワークなど実施し、意識の向上につなげた。
		● 「防災意識が高まった」と答える生徒・教職員 80%以上	生徒 80.9% 教職員 85.2%	A	防災の図上訓練として「目黒巻」を実施した。仮想空間の中で生徒自身が想像をめぐらし、自らが取るべき行動を認識することができた。また、グループ活動を実施することで生徒一人一人が意識の共有をすることできた。
		●「家庭で防災に関する話し合いを行った」と答える生徒・保護者 50%以上	生徒 63.0% 保護者 77.9%	A	防災訓練や防災講座を通して啓蒙を行い、被災時の行動等について意識が高まった。日本各地で災害が発生している背景もあって、災害を身近なものと感じ、防災について家族で共有する機会が増えた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ	適切な事務の執行を行い、信頼される事務室を目指す。	● 監査における指摘0件	0件	A	目標は達成したが、ヒヤリ・ハット事案は発生しているため、教員への啓発を含めた効果的な取組を考え実施していきたい。
		● 経営予算執行残が 0.5%未満	達成見込み	A	目標は達成する見込みであり効率的な予算執行ができている。目標を達成するためには、教員の協力も不可欠なため、配当予算の早期執行等を呼び掛けながら効率的かつ効果的に予算を執行していく。
		● 施設設備における事故発生0件	0件	A	施設の不具合箇所は早急に対応し安全を確保したため、目標は達成できたが、施設の老朽化のため不具合が頻繁に発生し、予算の不足が生じた。今年度は、追加予算を要求し対応したが、次年度も同じ状況が予想される。
キ	働き方改革を踏まえた業務改善を推進する。	● 1分掌1業務改善の提言	14 分掌中 13 分掌	B	各分掌・学年で業務改善に向けた取組を積極的に進めることができた。次年度も ICT ツールも活用しながら多忙化解消に向けた取組を行っていきたい。
		●「部活動ガイドライン」の趣旨を遵守している部活動 100%	100.0% (12/31 時点での平日・休日の休養日数達成率)	A	部活動ガイドラインにおける休養日の達成率は 100%であった。次年度も引き続き目標を達成できるよう生徒・教員にとって無理のない活動時間の設定を促していきたい。
		● 年休取得前年度比増(最低5日以上)	前年度比 －1.7%	B	概ね目標は達成できた。来年度も引き続きワークライフバランスを意識しながら年休取得を促していきたい。
		● 時間外業務の対前年比5%減少	4.0%減少	B	目標には届かなかったが、時間外業務時間の削減に対する意識は向上してきている。来年度は平日の時間外業務時間削減に向けた取組を考えていきたい。